

平成２７年度
魅力ある地域づくり取組紹介

益田市政策企画局人口拡大課

美濃地区

『あたたかな絆に支えられ、
みんなが安心して暮らせる美濃づくり』



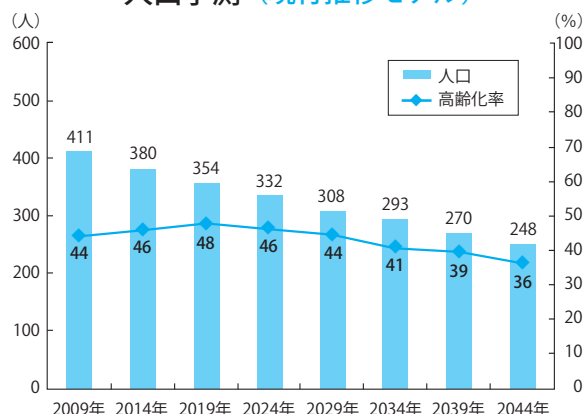
1. 地区の現状

美濃地区は益田市の最西端に位置し、周囲を山々に囲まれ、河川・道路の周辺に農地が続く典型的な中山間地「田舎の原風景」が広がっています。

美濃地区の人口は、平成 27 年 4 月末日時点で 362 人、高齢化率は市の平均 33% より 10 ポイント以上高い 48.6% です。人口シミュレーションでも分かるように、このままでは将来的に人口減少、少子高齢化が進み、地区の存続が危ぶまれています。また、地区の主要産業は農業（水稻中心）ですが、担い手の高齢化や後継者不在の問題を抱えており、高齢者の移動手段の確保も深刻な問題となっています。

さらには、地区民の相互扶助による安心・安全な社会生活基盤であった隣組制度、自治会活動が低下し始めるとともに、小学校の閉校により学校行事を通じた地域住民の交流の場が失われるなど、地域コミュニティの維持・活性化も課題となっています。

人口予測（現行推移モデル）



2. 美濃地区自治組織設立準備会

美濃地区自治組織設立準備会は、地域課題を克服し、事業の集約化による分野を横断した最適かつ継続的な取組を図るため、住民主体による自治組織の設立に向け、平成 26 年度に立ち上がりました。

昨年度、国土交通省が実施した「小さな拠点づくり」事業モニター調査の対象地域に選定され、まずは地域の実態把握から取組みました。地域の実態調査では、美濃地区全 157 世帯と中・高校生 13 名を対象に住民アンケート「本音承り書」に取組んだ結果、99.4% の回収率となりました。また、数回の会議を重ねながら、講演会や交通を考えるワークショップ、邑南町および柳井市で先進地現地調査を行いました。



3. 今後、取組むこと

小学校の廃校に伴い、地域交流の場が懸念されるため、空き家となっている旧旅館を活用して「美濃サロン」を開設するなど、少しずつできることから、地域の絆を絶やさない取組を美濃地区一体となって進めていきます。また、旧小学校区の無人化した「大道集落」の現状を直視し、地域住民が一体となって元気な集落づくりに取組んでいきます。

4 月に開催した青空カフェ「美濃カフェ」は、地区住民の 4 分の 1 が参加したほか、新しい U I ターン者 2 組も参加し、集落の話で盛り上がりしました。夏にはひまわりが満開の時期に「美濃カフェ」の開催を予定しています。

当準備会では今後の安心・安全な暮らしを維持する上で課題として認識している「福祉」「移動」「環境保全」「人材確保」の側面から、必要な取組を進めていきます。



鎌手地区

「住んでみたい」「住ませてみたい」
「住んでみてよかった」 鎌手

鎌手地区

浜田市と隣接し益田市の東の玄関口である鎌手地区は、国道9号とJR山陰本線が地区の中心部を横断しており、北側には紺碧の日本海、南は緑豊かな山々に囲まれ、賑やかさと自然に恵まれた魅力がいっぱいの6自治会に集う1,800名が暮らしています。

当地区は「益田市の花」でもある「日本水仙」が有名で、特に唐音水仙公園には200万球もの水仙が咲き誇ります。開花が始まる12月上旬から2月中旬のシーズンには、地区内外から約1万人の観光客が来園し賑わいます。また、「土田海岸」は夏場は海水浴客で賑わい、良質な波は多くのサーファーを楽しませています。

東の端の土田地区から西の端の木部地区まで旧山陰道が保存されており、その途中には分教場跡、村役場跡、茶屋や旅籠跡があり当時の往還道を偲ばせます。

毎年、7月の十七夜に行われる漁師の祭りにあわせ、大浜港では益田商工会議所鎌手支部の主催により2千発の花火が打ち上げられ、涼を求める約3千人の観客から港いっぱいに歓声がこだまします。



水仙 200 万球



唐音水仙公園に人の波



旧山陰道



大浜の花火

平成26年8月11日、より魅力的な地域にするため、鎌手地域魅力化推進協議会総会を開催しました。その中で鎌手地区の皆さんが、何に困って、何を希望し、どんな町にしていきたいと考えているかなど地域の声を聞くため、全地区民アンケート（高校生以上）の実施が決められました。

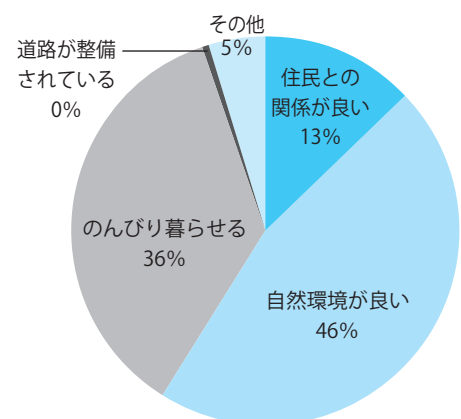
全地区民アンケートに取組んだ結果、回収率は60.07%でしたが、30項目の設問に加えて設けた自由記載欄には地区民の方々から貴重な意見、要望、提案が示され、設問回答以外に976件の声が寄せられました。

当協議会では、今年度の総会を4月28日に開催し、アンケートで示された鎌手地区の課題を解決していくための活動に優先順位をつけて実施可能なものから順に取組み、地域の魅力化につなげていくことを決めました。

地域自治組織への移行は鎌手地区民の将来にとって重要な事柄であり、今年度は5回の役員会による協議を予定しています。また、地域住民の方々が安心して生活できる仕組みを学び、参考とすべく先進地への視察も実施したいと考えています。

今後は地域自治組織の設立に向けて、地域住民への説明会を重ねながら鎌手地区民全体が納得、総意のもとで移行していくこととしています。

設問 7. 鎌手地区で住みやすいと一番に感じていることは何ですか。
(単独回答)



吉田地区

魅力ある「吉田のまちづくり」のために！

～地区の現状と「吉田の未来を考える会」準備会の取組～

吉田地区

1. 地区の現状

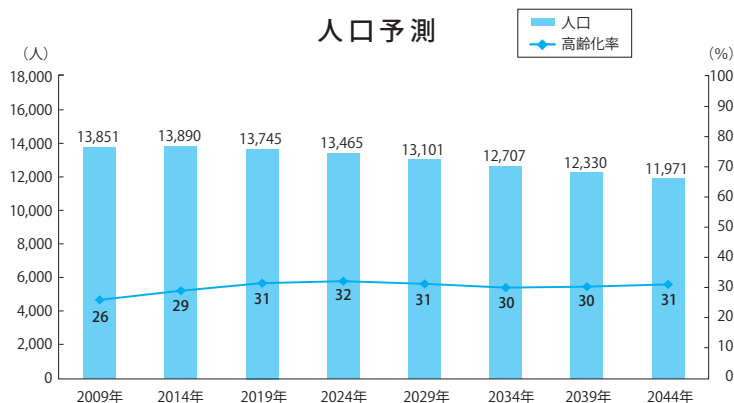
吉田地区は、人口約 14,000 人・世帯数 6,316 世帯・自治会数 39 自治会・高齢化率 29.8%（平成 27 年 4 月末現在）です。

右の人口予測グラフのとおり、人口はほぼ横ばいです。

生活に必要な施設は周辺部と比較して整っており、自然との調和もとれた暮らしやすい地区です。

しかし、他地区と同じように、様々な活動団体の役員の担い手不足（各自治会役員やPTA・青少協役員など）や少子高齢化も進みつつあります。

また、以前に比べて地域の絆などが稀薄になっているところや、自治会への未加入者が増えているところもあり、地区内の活動が難しくなっているのが現状です。



2. 「吉田の未来を考える会」準備会について

益田市が進める“人口拡大”に向けての取組の一つである“地域魅力化プロジェクト事業”に取り組むため、平成 26 年 6 月に「吉田の未来を考える会」準備会（以下、準備会という。）を立ち上げました。

益田市の示す“地域自治組織ガイドブック”を参考に地域づくりを進めるために協議を重ねています。

準備会の中では次のような課題が上がっています。

- ・自治組織の地区での役割がわかりにくい。
- ・地区住民に組織の必要性やメリットをどのように理解してもらえるのか。
また、どのように周知していけるのか。
- ・14,000 人もの地区民の総意をどのようにして得るのか。
- ・自治組織運営の長をどのようにして決めていくのか。
- ・「自助・共助・公助」の意識が希薄になりつつある中、どのようにして意識を持たせていくのか。



“吉田地区の民意を重層的に反映することのできる組織づくり”の方法を協議・検討しています。

3. 今後、取組むこと

昨年に引き続き、上記に関する協議を続けていき、準備会内での自治組織についての見識を深めるとともに、地区のためにどのようなことをしていけば良いか考えていきます。

また、今年度は地区内の現状把握の一つとして、これからの地域を担う子育て世代へのアンケート調査を実施します。「地域魅力化事業」については、昨年同様に地区内で事業を公募し、地区の魅力化に取組む事業を支援し協働で進めています。

“まちづくり”は“人づくり”地域みんなで取組みます！

二川地区

～ 人がつながる二川を目指して ～

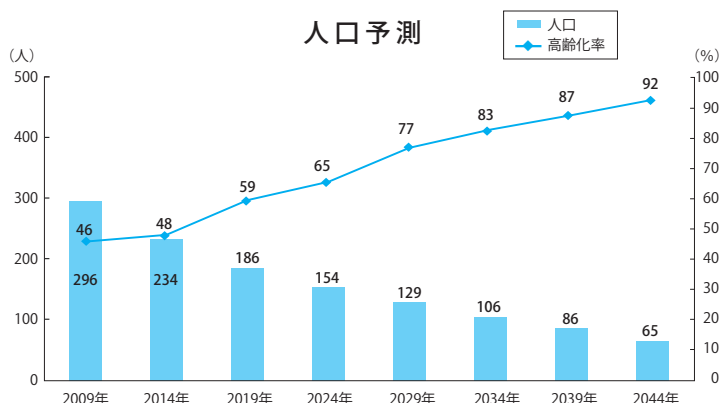


1. 地区の現状

益田の中心から20キロ離れた二川地区は、美都温泉・道の駅・飲食店・宿泊施設があり、桜・柚子・ホタル・史跡などの観光資源も豊富で、県内外から多くの人を訪れます。地区振興センターや小学校跡施設と温泉、飲食店を利用した青少年の研修も行なっています。

今後は二川を訪れた人と地域住民との関わり方について、もっと広範囲に交流が出来ればと考えています。

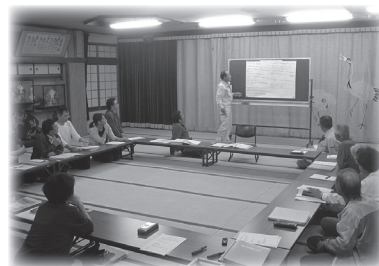
地区には青年層が少ないので、高齢化が進むと今までやってきたことを続けるのは難しく、「できることを」「楽しんで」行事を行うことが重要です。



2. 二川地区地域自治組織設立準備委員会

昨年9月に立ち上がった準備委員会では、ワークショップと少人数での話し合いを重ね、「美都温泉と一緒に」「小学校跡施設を有効に使う」「地域にあるものを自慢できる」の3つの意見を共有し、課題解決に向けた組織作りに向けて思いを一つにしました。今年度の委員会では、地区の課題に対して何を・誰がするのか、自治組織と自治会の関係はどうするかが話し合いの主眼になります。

昨年度は藤山 浩氏（島根県中山間地域研究センター研究統括監）の講演を聞いた後で、「いいアイデアがあるのになぜ形にできないのだろう」「冗談・雑談からひらめく会議の場が欲しい」などの意見が聞かれ、新しい決め事場の姿が見えてきました。委員会での議論を進めながら地域の皆さんにも地域自治組織を知ってもらい、より多くの個性で二川最大限のマンパワーを活かせる組織作りを考えていきます。



3. 今後、取組むこと

人に「来てみんない」と言えるような、集う人がつながる二川を目指すために、今年度は3つの地域魅力化事業を行います。



- ①温泉周辺で、二川への思いを描いた灯ろうの展示と邦楽を聴く秋のイベント
- ②二川に研修で訪れた青少年を地域住民で歓迎する取組
- ③休耕地での野菜作りを中心に、市街地の園児・親と地元の高齢者の3世代地域間地域内交流

<お知らせ>

灯ろうの絵（A4用紙程度の和紙）を描いて二川を彩ってみませんか？

興味、関心のある方は二川地区振興センター（☎ 52-2241）へ問い合わせください。

二条地区

里山をいかし、人と自然がつながる二条

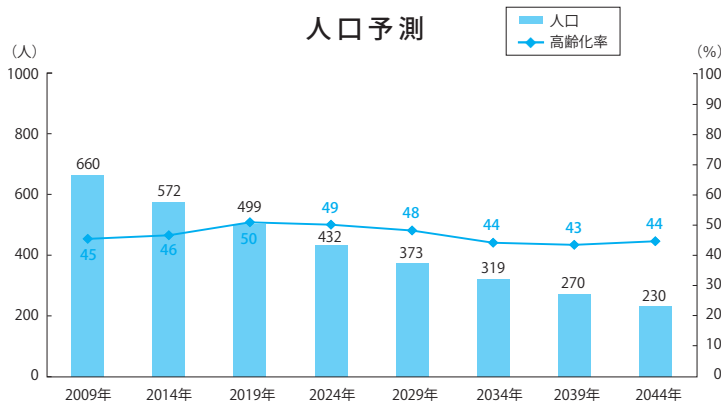


1. 地区の現状

二条地区は、益田市の中心地から南西に約 18km 入った先の山間の中にあります。

二つの城山に囲まれて、遠くに日本海を望む横山城からの眺望と雲海や、四季折々の里山風景は、非常に幻想的で、地区住民の自慢です。

一方、人口 574 人、高齢化率 48%（平成 27 年 5 月末現在）と、少子高齢化による人口減少、過疎化問題、独居増加問題、学校統廃合問題、イベント等の継続的開催の問題等、中山間地に限らず、どの地区でも抱えている問題が山積しています。



2. 地域自治組織「二条里づくりの会」

二条地区では、「地域自治組織」設立に向けて、平成 25 年 5 月より、まず、準備会議設立のために事前会議を 4 回行い、7 月に「二条地区地域自治組織準備会議設立総会」を開催しました。8 月から 11 月までの 3 カ月間、20 名の準備委員が分担し「まちづくり戸別聞き取り調査」を実施しました。

次に、地域自治組織設立の準備活動として、平成 26 年 4 月に第 1 回目の地域自治組織準備会議を開催して以降、8 月までの間、計 10 回の準備会議を経て、平成 26 年 8 月 30 日に「二条里づくりの会設立総会」を開催しました。「里山をいかし、人と自然がつながる二条」を基本方針に、「なりわい」「くらし」「ひと」部会を設置して、各部会を中心に今後様々な取組を展開していくことになりました。

「二条里づくりの会」設立後、認定に向けて、なりわい・くらし・ひと各部会計 15 回、役員会 15 回、全体会議 11 回の会議を重ね、「元気な二条邑づくりプラン」(5 カ年プラン) と共に、5 カ年活動計画(事業計画)を策定し、平成 27 年 5 月 24 日「二条里づくりの会総会」を開催しました。地区住民の方々より承認され、平成 27 年 6 月 17 日に「二条里づくりの会」は、益田市より地域自治組織の認定第 1 号として認定通知書の交付を受けました。



3. 今後の取組

まず、二条里づくりの会(地域自治組織)は、「元気な邑づくりサイクル」の実現に向けて、5 カ年活動計画をもとに、単年度事業計画を確実に実施し、ステップアップしていく事が必要だと考えています。

それにより、二条地区住民の方々へのさらなる理解を深めることができ、また、より多くの地域住民の参加・参画を促していきます。

「元気な邑づくりサイクル」の目的である、「移住」「定住」「永住」、住んでみたい、そして、住みやすく、住み続けていくことができる二条を目指し、益田市地域自治組織認定第 1 号としての責任の重みを感じつつ、邁進していきます。



北仙道地区

住みやすい「北仙道」にするには？

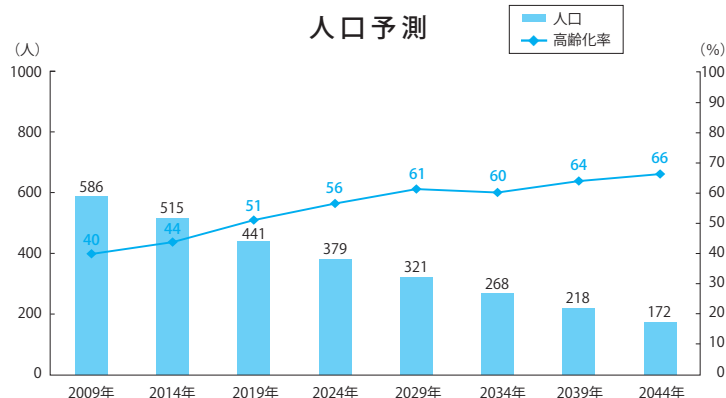
～地区の現状と準備会議の取組～



1. 地区の現状

当地区は、市中心部より 5～10km 圏内に位置し、人口 508 人、世帯数 202 世帯、高齢化率 45.3%（平成 27 年 5 月末日現在）の中山間地域で、過疎化・少子高齢化・耕作放棄地の増加・空き家の増加・不法投棄等、全国の多くの中山間地域が抱えている課題を当地区も共有しています。

右グラフが予見するように、このまま何もしないで手をこまねていると、30 年後には人口 3 分の 1、高齢化率 1.5 倍の現実が待ち受けています。



2. 北仙道地区地域自治組織設立準備会議の設立

平成 25 年度から本格的に始まった益田市の「人口拡大計画」に基づき、当地区では昨年 7 月に北仙道地区地域自治組織設立準備会議（以下「準備会議」という）を設立し、地域魅力化プロジェクト事業の両輪である「地域自治組織設立準備事業」（以下「設立事業」という）と「地域魅力化事業」（以下「魅力化事業」という）に取り組んでいます。

本年度は、新体制によりスタートし、5 月に第 1 回目の会議を開催して以降は、毎月第 3 水曜日に会合を持ち、活発な議論が行われています。



昨年(8月16日)のキャンドルライトの様子
(赤雁の里より天道山を望む)



第 2 回会合(6月17日)の様子

3. 今後の取組

本年度の活動の目玉は、設立事業では学識経験者を招いての講演会・戸別アンケート・先進地視察調査の実施を予定しています。魅力化事業ではキャンドルライト in あかがり & かかしコンテストへの支援、子供地元学 in 北仙道の実施、GIS（地理情報システム）を活用した北仙道地区基礎カルテ作成事業（第 2 期）に取り組めます。特に GIS を活用した事業については、地域の実態を把握し、情報を可視化していきます。

また、8 月に子供地元学 in 北仙道を取組む予定ですが、昨年度の地元学では、「大人の視点」で地区の掘り起こしを行いました。今年度は「子どもの視点」で地区の魅力を掘り起こしてもらいたいと考えています。

併せて、当地区では、島根県中山間地域研究センターが実施する「学生インターンシップ事業」に採択されました。この事業により、8 月から 9 月の 1 カ月間、山形大学の学生が来益する事が決定し、「他所からの視点」で当地区の魅力を掘り起こしてもらおうと同時に、子どもたちとの活動や GIS を活用した「お宝マップ」の作成等を実施する予定です。

本年度は色々と研修や体験活動を地区の方々に取組んでいただき、話し合いの場を出来るだけ多く作り、住みやすい「北仙道」づくりについて議論を深め、北仙道らしい地域自治組織を見つけていきたいと考えています。

豊川地区

とよかわの将来のために!!
～みんな笑顔のとよか㊦づくり～

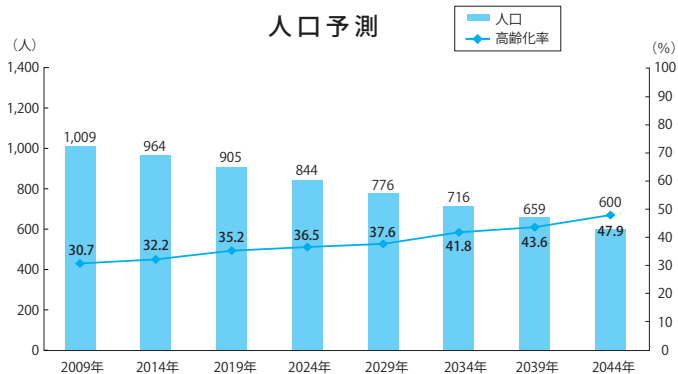


1. 地区の現状

当地区は、益田市中心市街地に隣接し都市部と山間部を併せ持つ、緑に囲まれた自然豊かな都市近郊の地域で、人口 945 人・世帯数 385 世帯・高齢化率 31.85% (平成 27 年 6 月末現在) です。面積は 20.03 km²、南北に国道 191 号が縦断しており、その沿線に大半の集落が点在しています。(一部、岩倉・栃山地区は中心部から約 10km 奥部にあり、3 世帯 7 人の危機的集落となっており、通常の社会的共同生活に支障をきたす状況となっています。) その国道 191 号に並行して益田川が流れており、上流部には益田川ダムが設置されています。

公共的な施設としては豊川小学校、豊川保育園等が存在していますが、少子高齢化が進んでいる状況下において、特に幼児・児童の減少が著しくなっています。(平成 26 年度、出生数 5 人、死亡数 12 人)

さらに、日常用品・食料品等を購入できる商店もなくなり、高齢者世帯や独居高齢者などの交通弱者にとっては大変な事態に直面しており、生活バスが唯一の交通手段となっている地域もあります。



2. 「とよかわの将来を考える会準備会」について

前年度、地区振興センター運営委員会を中心に、新たな「まちづくり」「地域づくり」に取り組むための組織として、昨年 11 月に地域自治組織の設立に向けて準備会を立ち上げました。

今年度は準備会に自治会、各種団体の代表、地区住民が参画し、6 月より 43 名による体制がスタートし、「豊川地区のまちづくりを自分たちで!!」をスローガンに、安心できる地域の未来を自分たちで考え築いていく場として、本格的な活動が始まりました。

7 月には第 2 回の準備会を開催し、「自治会の現状・課題等」をテーマに自治会別のグループ討議や「地域魅力化プロジェクト事業」の説明を行いました。



3. 今後、取組むこと

「みんな笑顔のとよか㊦づくり」を目指し、準備会では地区の現状を把握するために地区民へのアンケート調査(聞き取り)や先進地視察、研修会等を実施し、次年度に向けた活動計画の策定に活かしていく予定です。

地域魅力化事業では、昨年度実施した 3 事業(GIS によるマップ作成事業、歴史的遺産・名勝等の利活用整備および保存事業、次世代育成に関する事業)に加え、新たに「みんな笑顔のとよか㊦づくり事業」として、地区住民が主催する教室の開催を支援、作品の展示等、地区の拠点となる公民館および地域交流スペース(豊川小学校)の利活用により地区民同志の積極的な交流を図っていきます。

将来ある若い人たちが、豊川に住んで良かったと思えるような地域にするため、地区の皆さんのご協力をお願いします!!



小野地区

「次世代を担う若者がこれからも住み続けたい」
「U I ターン者も移り住んでみたい」
小野地区とするために！

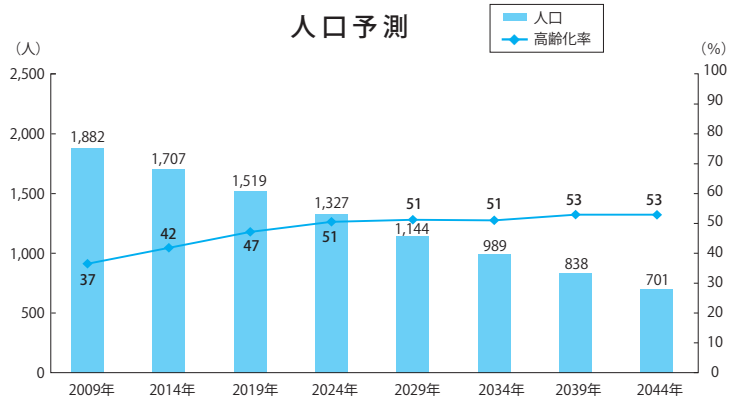


1. 地区の現状

小野地区は、人口 1,669 人・世帯数 701 世帯・高齢化率 43.08%（平成 27 年 7 月末現在）です。世帯数は毎年ほぼ横ばいですが、人口は減少し続けており、その傾向は今後も続くことが予測されます。

当地区は、柿本人麿生誕の地と言われていることなどから、歴史のあるまちとして伝えられてきました。また、海岸線沿いを中心に景観に優れたところが多く、他地区からも多くの人が訪れています。

歴史や景観を地域の資源として取組んできたまちづくりについては、今後も続けていきます。



2. 「小野地区地域づくり協議会準備委員会」について

準備委員会は、昨年 5 月に地域自治組織の設立に向けて地区振興センター運営委員を構成員として 10 名で発足しました。その後、地域自治組織の発足時の活動を想定する中で、構成員の増員と若い世代の加入に取組んできました。その結果、23 名の構成員となり、平均年齢が 67 歳から 55 歳へと 12 歳引き下がりました。

今年度の取組みは、アンケート調査、講演会、先進地視察等を予定しています。

アンケート調査は、現在の若い世代にこれからも当地区に住み続けてもらいたいことから、中学生以上を対象に実施することにしました。中学生については小野中学校に協力をいただいて、学校で調査用紙を配付し、準備委員会の会長が中学校に出向いて生徒へアンケート調査をお願いしました。その中で「卒業後は都会に出てもいずれは帰ってきて欲しい。そのためには、小野地区がどのようなになればよいかアンケートに答えて欲しい。」と思いを伝えました。また、高校生以上については自治会を通じて実施しているところです。



3. これからの取組み

これまで歴史や景観を活かしたまちづくりに取組んでいることから、今年度は次の地域魅力化事業に取組むこととしています。

- ① ボランティアガイド育成事業（地域資源を紹介するボランティアガイドの育成）
- ② 人形峠観光説明板等整備事業（人形峠の観光用説明板の設置と周辺整備）
- ③ 「小野ふるさと誌」編集事業（「小野ふるさと誌」の作製）

特に、人形峠観光説明板等整備事業終了後は、整備した説明板周辺を歩くウォーキング大会を開催し、地区の方に地域魅力化事業の取組みを知っていただく機会を設ける予定です。併せて、ボランティアガイドの方にも参加していただき、地域資源を紹介するなど実践を経験していただく場を提供する予定です。

こうした事業の“合わせ技”を行うことで、小野地区の魅力をより一層発信できるよう取組んでいきます。

西益田地区

一人ひとりが輝くまち 西益田

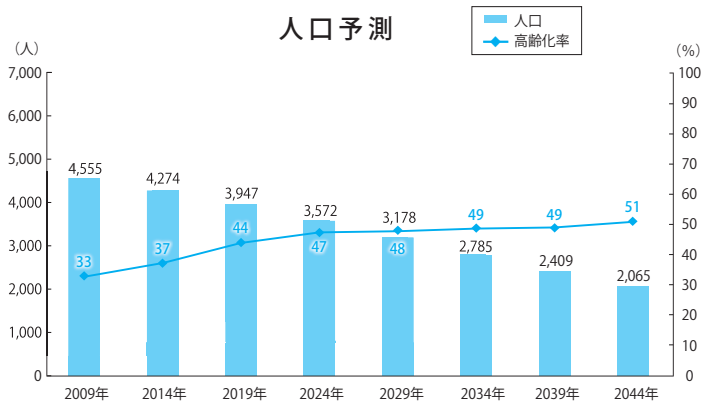
西益田地区

1. 地区の現状

西益田地区は、総人口 4,240 人、高齢化率 38.5%（平成 27 年 3 月末現在）となっています。若い人たちの UI ターンが少しずつ進んでいる成果もあり、幼児の増加が見られます。若い人たちが増えている要素としては、当地区が益田市西部の玄関口という影響もあるのではないかと推察しています。しかし、同時に家庭が個になり地域の繋がりが薄くなるのではと心配されます。高齢化率は年々高くなっていますが、これは高卒者の社会減・転出増と他地区からの福祉施設等への入所者が多いことが要因にあげられるものと推察します。

当地区は、益田市市内においても比較的面積が広い地区です。各金融機関、保育園、小学校・中学校・養護学校、個人医療機関、薬局、各種福祉施設、スーパー、コンビニエンスストア、飲食店などが点在し、普段の生活に困ることはなく、JR の駅や 2 本の国道が走り交通インフラも整っています。また、清流高津川や匹見川を擁し、鮎釣りなどを多くの人が楽しんでいます。

人口予測



2. 西益田地域づくりの会

当地区では自治組織設立に向けて昨年より十数回の会議を重ねるとともに、島根県中山間地域研究センターの藤山研究統括監を招いての講演会や、独自の先進地視察等を重ねて当会の意識の向上を図り、どのようなまちづくりが良いか検討してきました。

今年度は、地区住民に対するアンケート調査を行うため、アンケートの作成に係るプロジェクトチームをつくり、合計 7 回の会議を持ち、一言一句、句読点まで精査し、当会の承認を得て全戸にアンケートを配布し“まちづくり全世帯アンケート”を実施しました。



西益田地域づくりの会 スローガン



第 33 回 いかだ流し大会

3. これからの取組

西益田地区にも課題が多くあり、それらを目に見える形で住民の皆さんにお示しするためにアンケートの集計作業を急ぎ行っています。

年内には集計結果を発表して地区住民の皆さんと西益田地区の未来像を見据えた議論を重ねていきます。

～ 一人で頑張っても出来ないことがある。だからみんなで考えよう!! ～

匹見上地区

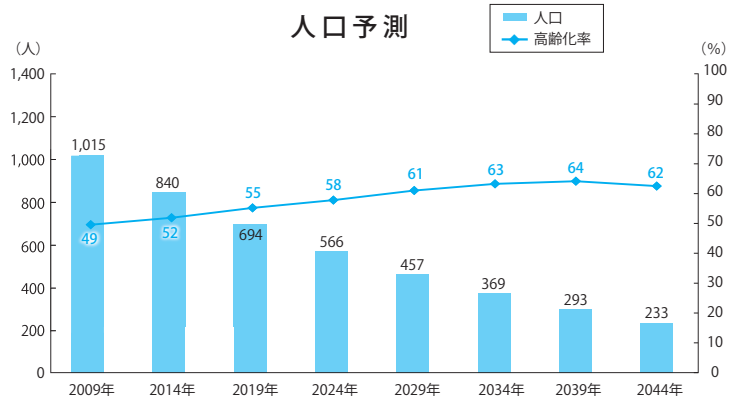
やってみよう！地域づくり

匹見上地区

1. 地区の現状

匹見上地区は匹見町の中心部に位置し、安蔵寺山などの1,000 mを超える山が連なり、西中国山地国定公園の裏匹見峡などの豊かな自然や縄文文化を中心とした数多くの遺跡も有し、自然と文化的資産にも恵まれている地域です。

人口は788人、高齢化率54.2%（平成27年7月末現在）で匹見総合支所をはじめとして主要施設も整い、生活する上では比較的利便性の高い地域と言えますが、過疎化、少子高齢化が進んで、産業・経済活動にも影響し、厳しさを増しています。



2. 匹見上地区設立準備委員会について

益田市の進める“人口拡大計画”に基づき、匹見上地区では「地域自治組織」設立に向けて、昨年8月に匹見上地区設立準備委員会を立ち上げ、事務局を中心に会議や研修を行いました。今年度は匹見上地区全23自治会に足を運んで「地域自治組織」の仕組みを説明し、まずは地区住民の皆さんの理解を深める取組を進めています。また、説明時には地区住民の皆さんから地域で困っている事や地域の魅力などを聞き、情報収集も行なっています。

3. これからの取組

各自治会での説明会で頂いた意見や過去のアンケートの結果を集約したものを踏まえて、まちづくりプランを検討していきます。また、地区住民とのワークショップも行い、これからの匹見上地区の行き先を考え、魅力あるまちづくりを進めていきます。

地区の魅力化を図る活動としては、毎年駅前ビルEAGAで開催している「わがまち自慢フェア」を、地元恒例のイベント「匹見峡紅葉ロードレース」と同日開催する計画を立てています。

また、匹見上地区内の三世代交流事業や匹見の自然を利用した体験事業を通じて、交流人口の拡大を図り、Uターンに繋がるように活動に取り組んでいきます。



盆踊りの様子



わがまち自慢フェアの様子



先進地視察の様子

道川地区

～道川に人が住む限り～

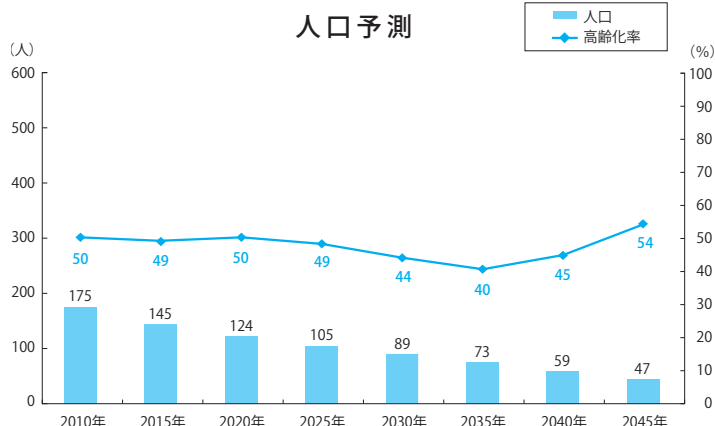
自分たちで なんとかせにゃーいけん!!

道川地区

1. 地区の現状

道川地区は益田市の南東、西中国山地に位置し、平均標高 500 m、県内でも有数の豪雪地帯です。地区の中心を国道 191 号が通り、益田市と広島県を結ぶ交通網の重要な地点となっています。また、「奥匹見峡」「表匹見峡」といった景勝地を有し、四季の風情を味わうことができる自然豊かな地域として、県内外から多くの方が訪れています。

平成 27 年 9 月末時点で人口は 143 人、高齢化率は 51.7% です。高齢化による担い手不足の為、移動手段の困窮、医療介護の不安、冬場の除雪作業の負担等、多くの課題を抱えています。



2. 「道川地域づくり協議会準備委員会」について

当地区では、昨年 5 月「地域自治組織」の設立のため、平成 21 年に発足した「道川地域づくり協議会」を再編し、地域自治組織設立準備委員会とすることが了承されました。

まずは全戸に呼びかけ、「井戸端会議」を実施し、様々な視点から地域に対する思いを語り合いました。また、視察研修や勉強会等を行い、他地区の取組も参考にしながら、地域の現状を話し合い、実態の把握、課題を共有してきました。

「道川に人が住む限り、地域としてなんとかせにゃーいけん。」という思いがひとつになり、準備委員会では、今年 8 月に地区内の各種活動団体代表者の承認を受け、「まちづくり計画」を考案する企画委員を決定しました。

これまでの地域運営の在り方はどうだったのかを見直し、住み良い、安心して暮らし続けることが出来る地域を創るための組織づくり、活動計画などの協議、検討を行なっています。



道川地域づくり協議会 会議



まちづくり計画 企画会議

3. 今後、取組むこと

これまでに集めてきた地域データを基に、個性を活かし、魅力ある「まちづくり計画」の策定にむけた協議、検討を行います。

また、住民、活動団体の繋がりを大切にし、基本目標に掲げている「1. 地域資源を活かした元気な地域」「2. 伝統と文化、豊かな自然を守り、育てる地域」「3. 助け合い、支え合い、安心して暮らせる地域」を継続して推進していきます。



地域づくり講演会

種地区

地域の特性と自然を生かし 一つの輪となった「むらづくり」

種地区

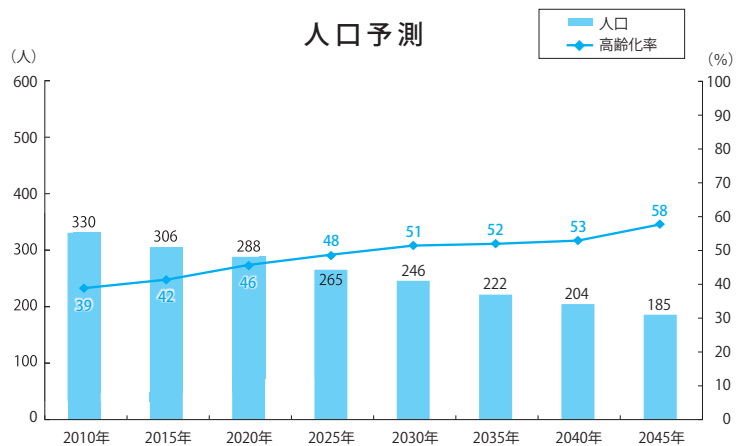
1. 地区の現状

種地区は、益田市の中心地から車で約15分、市の東部に位置し、浜田市に隣接しています。地区内には1台の信号機もなく、豊かな自然に育まれた、おだやかな里山です。

明治22年に美濃郡種村となり、昭和30年に益田市と合併し、現在に至っています。

世帯数117世帯、人口301人、自治会数4、高齢化率40.9%（平成27年9月末現在）で、他の中山間地と同様に種地区も少子高齢化が進み、急速な人口減から、10年後20年後、これまでと同様な自治会活動を継続することは困難であると予測されます。

人口予測



2. 地域自治組織に向けての「種むらづくり推進協議会」について

種地区では、各自治会の枠を超えた11の団体から構成される「種むらづくり推進協議会」を核としてその強化を図り、地域自治組織の設立を目指します。

今年9月には、種まちづくり計画案作成のため、地区内中学生以上の全ての住民を対象に、意識調査アンケートを実施しました。

その結果を精査し、地区の実態を把握した上で目標を定め、地区民全員参加の一つの輪となった「むらづくりプラン」を作成します。



種むらづくり推進協議会 会議



まなびや工房による種特産品の販売

3. 今後の取組

「種むらづくり推進協議会」が中心となり、地区の実態を地区カルテ等にまとめ、課題解決に向けた事業を検討します。

先行している事例として、旧種小学校の跡地利用の一環から、平成20年に設置した農産加工場「まなびや工房」「(農)アグリ種」との連携により、さらに充実発展させ、地域活性化・農業振興を図ります。

また、U・Iターンの定住を促進し交流人口を拡大するために、まずこの地域に関心を持ってもらうことが重要と考えます。「Facebook」「種だより・ふるさと便」等の情報発信により、豊かな自然・風土の紹介だけでなく、未耕作地対策、鳥獣被害、高齢化による後継者不足、社会インフラ整備等の問題点を提起しながら、全ての課題を共有し、意見交換を行なっていきます。



種スコップ菜園

益田地区

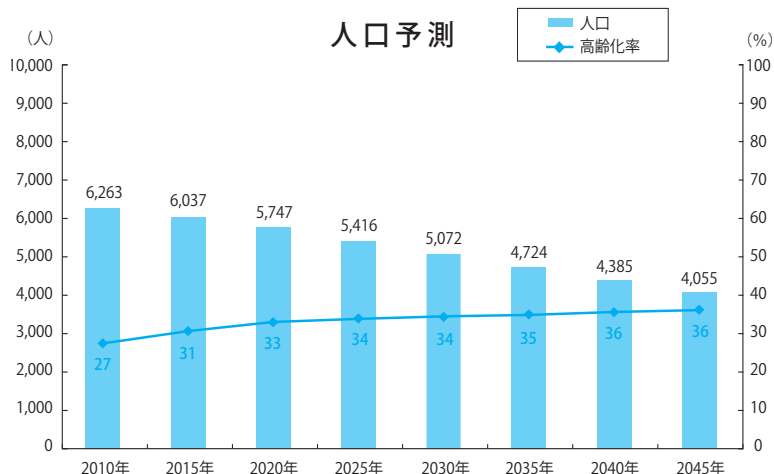
『歴史を活かしたまちづくり』
『ふれあいのあるまちづくり』
『安心・安全なまちづくり』



1. 地区の現状

益田川と国道 191 号が横切り、益田川中流域の平野部に位置する益田地区は、益田本郷と言われ中世鎌倉時代から戦国時代まで益田氏の城下町として栄えたところです。その本拠地「七尾城」「三宅御土居」のほか、名勝雪舟庭園が2カ所もある歴史・文化遺産の多い地区です。

地区の人口は 6,079 人で高齢化率は 30.6 % (平成 27 年 10 月末日現在) です。益田市における中核を担っていた時期もあった当地区ですが、人口減少、少子高齢化の波は確実に押し寄せ、商店街もかつての賑わいはなくなってきています。



2. 「益田地区地域自治組織設立準備会」について

益田市が進める地域自治組織設立に向けて、平成 26 年 6 月に「益田地区地域自治組織設立準備会」を立ち上げました。益田地区振興センター運営委員会を母体にして各種団体から委員を募り、24 名の体制でスタートしました。

昨年度は自治会長を対象とした説明会の開催に続き、自治組織先進地区の山口市大内地区、大殿地区の視察を行いました。先進地区における組織づくりや運営方法などを学ぶとともに、益田氏と大内氏という縁の深い地区同士ということもあり、「歴史を活かしたまちづくり」という視点からも交流することができました。



益田地区地域自治組織設立準備会

3. これからの取組

今年度は広島県の「庄原自治振興区」を視察し、人口がほぼ同規模の自治組織の運営を学びたいと思います。また地区の実態を把握するためのアンケート調査を計画し、準備を進めています。そのアンケートを集計し、結果を検証する中で地区の課題等を整理し、「まちづくりプラン」に反映させていきたいと思っています。

七尾まつりを始めとした伝統ある行事を大切に引き継ぎ、地区住民のつながりを大切にしながら「歴史を活かしたまちづくり」「ふれあいのあるまちづくり」「安心・安全なまちづくり」を進めていきたいと考えています。

匹見下地区

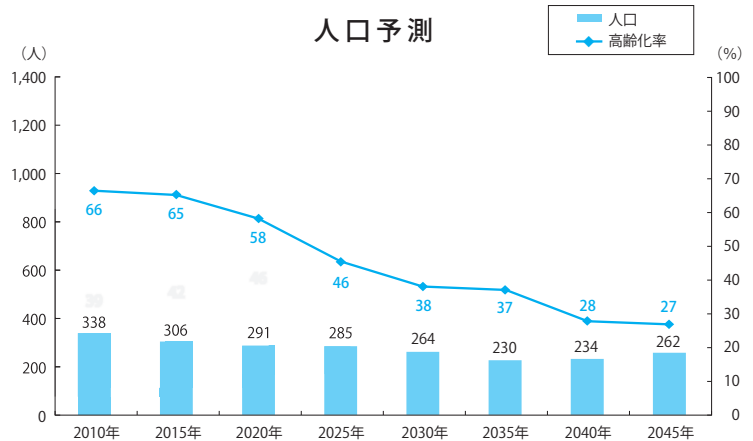
住む人と場所が魅力の地域づくり



1. 地区の現状

益田市の中心部から国道9号・488号を経由し、30kmほど山間に入った所に位置しています。面積は65km²と広く、山林が約97%を占めます。人口は305人、高齢化率64.6%（平成27年10月末日現在）と、益田市20地区の中で最も高齢化の進んだ地区です。

山林や清流といった魅力的な自然環境に恵まれ、また、過疎・高齢化の先進地であるがゆえに、地区住民の辛抱強い生き方、古くからの暮らしに根ざした知恵や文化の伝承、互いの強い関わり合いなど、多くの場所で失われようとしているものが、この地区には未だに数多く残っています。



2. 匹見下地区地域づくり協議会

平成25年8月「匹見下地区地域づくり協議会」を立ち上げました。地区の広さや過疎・高齢化によって生じた、交通手段の確保・生活物資の購入・鳥獣被害対策・生活環境の整備等、この地区の抱える緊急の課題を明らかに、対処するためです。更に、この地区の良いところは深化、発展させ、住民が豊かで楽しく、安心して暮らせる仕組みづくりに取り組んでいます。

平成28年3月の自治組織の設立に向け、34名の協議会委員が、「地域づくり」、「福祉」、「くらし」の3部門に焦点を絞り、随時、協議を重ねています。



地域自治組織に係る説明会(澄川)の様子



地域自治組織に係る説明会(広瀬)の様子



視察研修(波多コミュニティ協議会)の様子

3. 今後の取組

これからどのように時代が変化しようとも、私たちは時代の流れに身をゆだねるのではなく、「過去を顧みる謙虚さ」、「現実を見つめる確かさ」、そして「未来を見通す賢さ」を持って一步一步進んでいきます。

基本的には、恵まれた自然を活かし、地区住民が一体となった繋がりに重点を置いた地域づくりを目指します。

高津地区

～住んで良かった、住みたくなった高津～

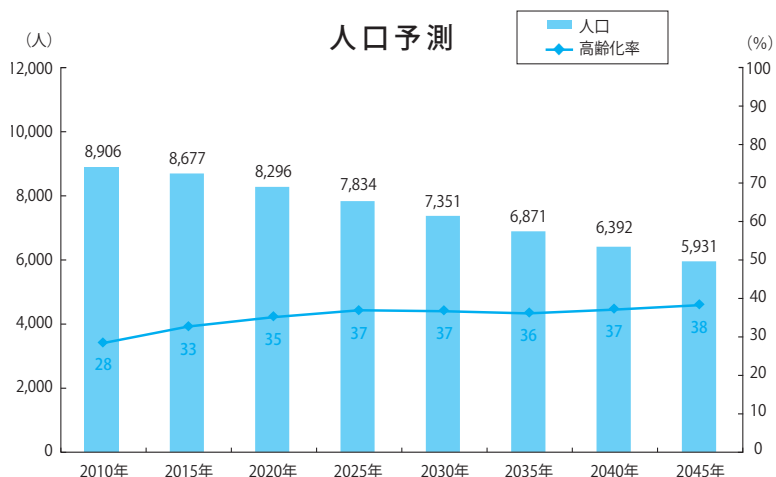
高津地区

1. 地区の現状

高津地区は、清流高津川、万葉公園、持石海岸などの自然環境に恵まれ、歌聖柿本人麿にまつわる歴史や文化が豊かな地区です。人口 8,690 人・世帯数 3,848 世帯・自治会数 32・高齢化率 33.3%（平成 27 年 11 月末現在）で、長期の人口予測は、右グラフのとおりとなっています。

地区の中には大型店舗が立ち並び、便利な面もありますが、地区面積が広いため、中には食料品や日用品の調達に不便な地区もあります。また、少子高齢化の影響に加えて、自治会未加入者が増え、自治会活動、地域内活動にも支障をきたす恐れがあります。

しかしながら、地区を挙げての体育大会、敬老会、文化展での結びつきは変わらずに取組んでおり、高津全体としてのまとまりは保たれています。これは他地区にない強みだと思っています。



2. 地域づくりの動きと今後の取組について

高津地区地域づくり協議会では、益田市の進める“人口拡大”に向けて、次の 2 点に取組んでいます。

1 点目は地域自治組織設立の取組です。今年度は幅広い意見を拾い上げていくために、小・中学校の P T A・母親委員会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、愛育会にも同協議会に参加を呼びかけています。また、高津小学校の P T A 会員に協力をいただきながら、地域づくりに関するアンケートを実施し、回収率は 75.8%と高い割合となりました。

今後の進め方については、同協議会を中心に益田市の示す“地域自治組織ガイドブック”を参考にして取組みます。

2 点目は地域魅力化事業の取組です。同地区の有する歴史、文化、伝統行事・芸能を活かすとともに次世代への継承や高齢者の生きがい対策などを図るため、①柿本人麿公の偉業を顕彰する事業（年 6 回の講演会・カルタ大会・万葉クイズウォーキング等）、②高津やぶさめ行事継承事業（八朔祭での活動等）、③高津の歴史・文化・旧跡保存事業（高津十景作成・DVD 作成等）、④伝統芸能持石田植雛子保存事業（田植雛子の保存継承）、⑤高津花いっぱい事業（老人会の方々による学校の入学・卒業時のブランター飾り等）に取組んでいます。

この取組を通じて、歴史、文化、伝統行事・芸能を次世代に継承し、子どもたちの郷土愛を育むとともに、交流人口の拡大を目指しています。



高津地区地域づくり協議会の様子



柿本人麿公の特別展の様子



高津小学校で田植雛子の伝承の様子

真砂地区

『保育園×小・中学校×地域商社×公民館×□×□=∞の未来』

子どもたちが未来に希望をもち
夢を語れる地域を目指して

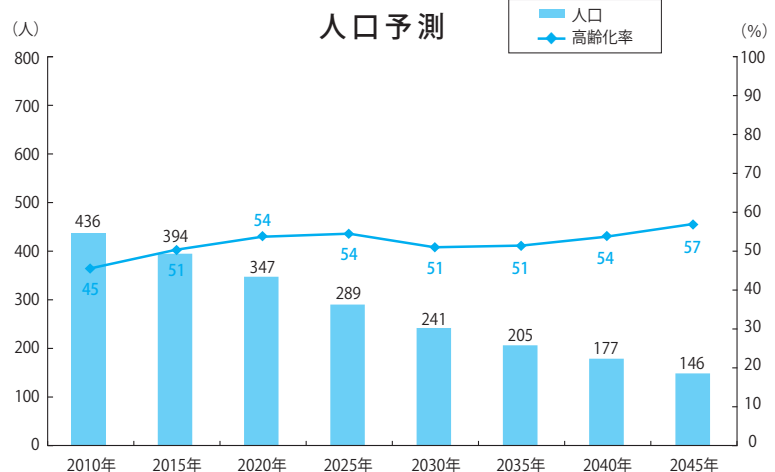


1. 地区の現状

真砂地区は、益田市のほぼ中央に位置し、市街地から15km（約20分）ほど離れた山間部にあります。人口は400人（高齢化率52.0%）をきりましたが、地域内には保育園と小・中学校が存続しており、それが住民の希望であり、また平成23年からスタートした『食育』をテーマとした地域活動の大きな基軸となっています。

特産品は、^{ひぐらしやま}日晩山の恩恵である美味しい水と四季の寒暖差でたくましく育った米と野菜。とりわけ低農薬で安心安全と評判の野菜は、提携する市内の4保育所に給食食材として提供しており、子どもたちの健康づくりだけでなく生産者の生きがいにもなっています。

一方で、高齢化による農業の担い手不足や交通弱者（特に女性）問題が深刻化しており、今後の対策が急務となっています。



土づくり研修会

2. 地域自治組織設立準備委員会

当地区は、地域自治組織設立のためのモデル5地区のうちの1つとして、3年前から他地区に先行して活動してきました。今年度は最後の1年ということで、子どもたちが未来に希望をもち、住民みんなが夢を語れる「まちづくりプラン」を実施するための、具体的な活動計画や規約内容の協議・検討を委員会で重ねながら、年度内の組織設立と認定を目指しています。



園児による高齢者の見まもり

3. 今後の取組と更なる発展

- ① 気軽に集える、何でも挑戦できる場づくり
 - ↳ 里山レストラン、グローバル寺子屋の開設
- ② 真砂保育園による『里山保育』の強化
 - ↳ 地域福祉のお手伝いと健全育成
- ③ 野菜の欠品解消および農業の担い手不足対策
 - ↳ 栽培計画と土づくり研修会の充実
 - ↳ 都市との農業体験交流と障害者雇用の検討
- ④ 『買い物バスツアー』の継続

安田地区

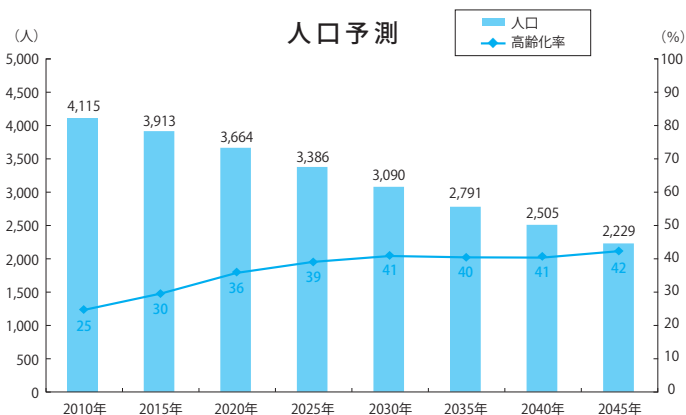
「触れあい・支えあい・いつまでも
安心して暮らせる地域づくり」

安田地区



1. 地区の現状

安田地区は、人口 3,917 人（男：1,829 人、女：2,088 人）世帯数：1,621 世帯、高齢化率：30.4%（平成 27 年 12 月末現在）であり、益田市では高齢化率が比較的低い地域です。また、地区内には病院や介護施設、多くの企業があり、史跡や遺跡も豊富で、現在発掘調査中の大元古墳、鵜の鼻古墳などの多くの古墳群があります。山陰道遠田～三隅間の道路工事も始まり、これらの地域の魅力を発信し活気あふれる地域づくりを目指します。



2. 安田地域づくり協議会

地域自治組織設立に向け、人口拡大や地域課題解決のための事業を行うことを目的として、平成 26 年 7 月 15 日に「安田地域づくり協議会」が立ち上がりました。現在の構成員は若い世代が 17%、女性が 34%となっており、今後さらに若者と女性の参加を促しながら進めていきます。今年度は地域自治組織設立に向けた取組として、住民アンケートを実施し、地域の現状、住民のニーズなど問題点を把握し今後の地域づくりに活かしていきます。また、先進地の視察も計画しています。あわせて、月に 1 回 10 名程度の代表で「企画委員会」を開催し、地域魅力化プロジェクト事業と全体の取組について話し合っています。今、地域づくりを主体的に取組む人材の確保が課題となっています。



安田地域づくり協議会総会



企画委員会の様子

3. 今後の取組と更なる発展

住民アンケートの結果を踏まえ企画委員会や役員会で今後の課題や方針を協議し、解決に向け取組んでいきます。「地域魅力化事業」については、今年度の 4 つの事業（①フリーマーケット事業、②地域環境整備事業、③史跡・遺跡整備事業、④地域お助け隊事業）を継続し、新たな事業として住民の拠点となる施設（産直市やサロン）として、場所、資金調達、運営方法の検討を進めていきます。



大元古墳発掘調査

東仙道地区

「安全・安心な」「みんなに見える」
「人と人とのつながりを大切にできる」まちづくり」

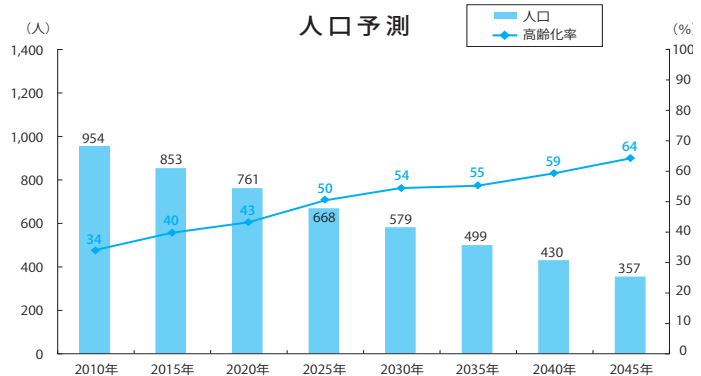


1. 地区の現状

益田市中心部に近い立地ですが、人口は約 850 人、高齢化率も 40%を超え、少子高齢化が進む中で、地域活動では除草作業等の生活環境を維持することが困難になりつつあります。

また東仙道小学校も児童数の減少によって学校再編計画が出ています。

国道 191 号沿いには誘致企業があり、多くの雇用が創出されています。また、コース数日本最大級(14 コース、112 ホール)のグラウンドゴルフ場「ひだまりパークみと」や屋根付き施設の「さくらドーム」、サッカー場には市内外から多くの利用者が訪れています。地区内にコンビニエンスストア、郵便局、農協 ATM、ガソリンスタンドがあり、特産品は柚子といちごです。



2. 東仙道地区地域自治組織設立準備委員会

平成 26 年 12 月に 7 自治会 4 団体の代表で準備委員会を立ち上げ、話し合いや研修会を開催していますが、まだまだ始めたばかりで東仙道地域にふさわしい組織をどう作っていくか、これから手探りで模索していくことになります。

今までの会議では委員の方から以下のような意見が出ています。

- 高齢化に伴う農業対策が必要だ。
- 地区の中心部に比べて周辺部での利便性が良くない。
- 人口減少を食い止める魅力ある事業を実施する必要がある。
- 交通が不便、サロン等に参加したくても行けない。
- 小学校とあわせて保育所の運営も厳しい状況にきている。仕事と住居が両立すれば安心して暮らせる。
- 地区によっては除草作業等が困難になって、やめたり人を雇ったりしている。

平成 28 年 1 月に住民アンケートを実施しましたので、今後、地域住民の皆さんの意見を集約し課題を整理していきます。



設立準備委員会の会議の様子



市内の先進地域から講師を招いて研修会を開催しました。



クリスマスツリーの設置作業を、地域の団体と小中学生と一緒に実施しました。

3. 今後の取組と更なる発展

中学生以上を対象に実施した住民アンケート調査をもとに、地域住民の皆さんの要望や意見を集約します。また、3 月には県内の先進地視察を計画していることから、あわせて参考にし、今後の東仙道地区の課題を明らかにし、解決方法や新たな事業を展開していきます。そして、東仙道地区にふさわしい地域自治組織の設立を目指していきます。

中西地区

ヘルスポイントで地域を元気に！
～いつまでも暮らし続ける仕組みづくり～

中西地区



1. 地区の現状

中西地区は、市の中心部から西に約10kmのところに位置し、高津川・白上川流域の平坦な田園地帯とその周辺の山間・丘陵部で構成されている地域です。人口は1,987人、世帯数799世帯、高齢化率は36.9%（平成28年1月末現在）となっています。

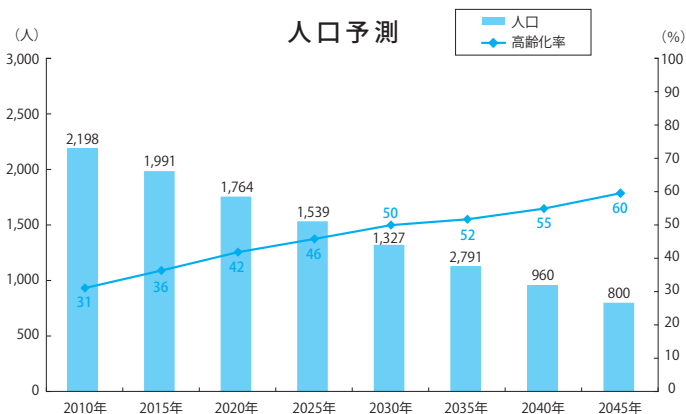
地区内にあった2つの商店が閉店したため、車を持たない高齢者が生活用品の購入に苦労している実態があります。

平成23年12月から開始した「中西ヘルスポイント制度」は、公民館での教室に参加するとポイントが貯まる仕組みです。貯まったポイントは、毎月第3土曜日に開催している「いき生き市」での買い物や、近隣の温泉（匹見・美都・田万川）、市内の商店で使える割引券と交換できるため、地域活動の中心となっています。

また、「いき生き市」ではサロンコーナーを設けて、買い物をするだけでなく、地域の方の交流の場となっています。

昨年7月には「中西なんでもお助け隊」制度を創設し、高齢者の方が安心して暮らし続けられる生活支援を行なっています。

以上のような活動が地域に根付き、昨年の12月には「中西ヘルスポイント制度」が読売福祉文化賞を受賞したことにより、さらに盛り上がりを見せています。



いき生き市サロンコーナー



中西なんでもお助け隊

2. 中西地区自治組織準備委員会

当地区では、益田市の取組の一つである『地域魅力化プロジェクト事業』に取組むため、平成26年7月に「中西地区自治組織準備委員会」を立ち上げました。住民の皆さんが安心して暮らせる地域づくりを進めるために協議を重ねています。2月には、山口市仁保地域の自治組織と地域づくりの取組を視察したことを、今後の活動に活かしていきたいと思います。今年度、地域の皆様に対してアンケート調査を実施する予定です。

3. 今後の取組

高齢となっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように、「中西ヘルスポイント制度」の充実と、アンケート調査による地域住民の意見を取りまとめ、結果に即した取組を行なっていきます。また、新たな地場産品の開発にも取り組んでいきます。

都茂地区

つろうて 生き活き ふれあって
みんなが輝く居場所づくり



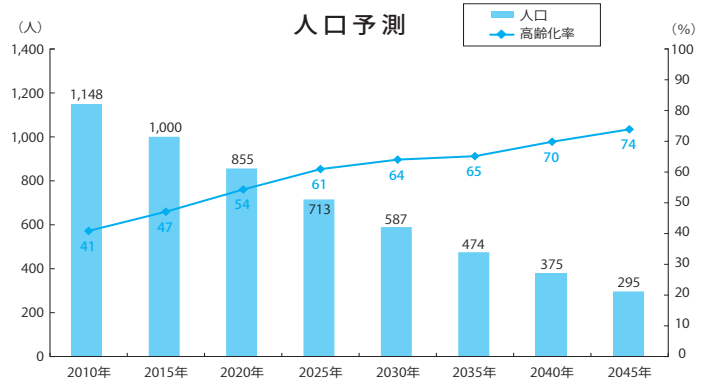
1. 地区の現状

都茂地区は、自治会数 12、人口 995 人、世帯数 500 世帯、高齢化率は 47.2%（平成 28 年 1 月末現在）の地域です。人口割合は 50 代以上が約 4 割を占めています。また、70 代以上の方では 1 人または 2 人暮らしの方が約 8 割となります。（アンケート調査結果より）

当地区は、旧美都町の中心地であったことから、総合支所、農協、郵便局、診療所、福祉施設などがあります。また、化学療法を発見した秦佐八郎博士の出身地でもあります。

四季でみると、春は金谷の城山桜に代表される桜の里に、夏は自然の森を含め濃緑に、秋は保育園児・小学生も出展する秦記念館菊花展、そして柚子の黄色の里となり、冬は城山桜に雪の花が咲きます。約 1200 年の歴史をもつ丸山鉾山も忘れる事はできません。

現在、交通弱者対策として、平成 26 年 3 月から連合自治会による自治会輸送（運転手 35 名）が始まっています。



2. 都茂地域自治組織設立準備会

当準備会は、平成 24 年 11 月に地区の 12 団体による「新しいコミュニティ設立協議会」として発足しましたが、その後、あらたに地域に呼びかけて集まった有志 13 名による「はっぴーターン推進会議」として平成 26 年 2 月に再スタートしました。この中で住民アンケート調査の原稿作りから実施・分析、研修参加、地区内外の交流、消火訓練などを実施したところです。

平成 27 年度は地域自治の活動を推進するために、地区連合自治会長会と協議を重ねる中で、さらに発展した準備会として 2 月 9 日に自治会長、公民館・センター運営委員、主旨に賛同する自治会員による「地域自治組織設立準備会」（31 名）を発足したところです。会員間による話し合い、二条地区の地域自治組織の取組を学ぶ学習会、視察研修、自治会輸送の充実、地域の魅力発見事業等を実施しました。

3. 今後の取組

アンケート結果では、「自然の豊かさ」、「人の優しさ」が地域の魅力です。一方、生活環境には若い世代は魅力を感じない結果が出ています。買い物、子育て、田畑の管理、鳥獣被害等の地域課題については、交通弱者対策として自治会輸送が始まったように、小さなことから熟議を重ねて、助け合いの中で少しずつ解決に向けた取組を増やし、「住んでいてよかったねえ」と言える地域にしていきたいです。

